

No. 61

2024年新春号



季刊ニュースレター

Newsletter

Face
to
Face

【特集】カンボジア事業



2023年11月23日に設立30周年を迎えました
今年も(これから)よろしくお祈りします

CONTENTS

【カンボジア事業特集号】

1~2 TICO代表 巻頭言

2~3 30周年! TICOの歩み

4~8 【特集】カンボジア事業

NGO活動と持続可能性

吉田 修

よしだ おさむ

特定非営利活動法人TICO代表

さくら診療所 医師

皆様のご支援のおかげで、TICOが活動を30年も続けることができました。心からお礼を申し上げます。

この間に世界の情勢は大きく変貌し、それに伴ってNGOの立ち位置も変わってきました。

1990年代、TICOがザンビアで活動を始めた頃、日本はバブル景気で絶好調、援助額で世界1位になったこともありました。当時のザンビアは極貧でした。最初の活動の場となった首都ルサカ市ンゴンベ地区は、数万人が暮らす貧民街で、蛇口を捻って水が出るタップが7箇所しかありませんでした。エイズの蔓延、栄養障害、不衛生などなど、典型的な途上国の問題が全て揃っている状況の中、母子の栄養改善のための事業を開始しました。

それから30年、いろいろな事業を実施してきましたが、2003年の大旱魃が一つの転機でした。地球温暖化に対する先進国の責任を改めて痛感し、人類共通の課題として対処しなければならないと痛感しました。

「干ばつに強い村作り、WAHE project」をチサンバ郡で始めました。W:水源の確保 A:持続可能な農業の普及 H:住民参加の健康活動 E:それらを支える教育 この4つを柱にしたproject です。トータルでそれほど上手くいったとは言い難いけれども、考え方は今も正しいと思っています。

もう一つ、基本的な考え方として、それぞれの活動の持続可能性 (sustainability)を常に意識して来ましたが、これも大変難しい問題でした。TICOにとって、資金源の切れ目は活動の切れ目、あとはザンビア側に頑張ってもらうしかありません。最初のンゴンベの事業は、栄養改善+職業訓練+保育所+小学校と発展し、学費を徴収したりヨーロッパのNGOの支援を取り付けたりしながら持続している成功例です。反対に、救急隊の事業は、TICOが支援をやめて数年後に完全に終わってしまいました。レッカー車を導入し事故車の輸送を有料にするなど事業化を図ろうとしましたが上手くいかず、警察からの支援もありませんでした。

この間、ルサカの状況は一変し、町中が大渋滞し幹線道路が立体になり、ショッピングモールが乱立し、どこも盛況です。それでも医療のレベルはそれほど上がっておらず、特に心臓の手術がほとんど行われていません。現在、TICOはザンビアでザンビア人による心臓手術が安全に行えるよう技術協力を行なっています。街の発展を考えると、ここで心臓の手術ができないなんて「おかしい」のです。きっと数年のうちには心臓外科が当たり前になり、次の世代を育成するようになっていきます。

カンボジアでは救急医療の改善のためのプロジェクトを再開しています。数年ぶりにカンボジアの医師たちとお会いし状況を聞きましたが、ザンビア同様、経済発展は凄まじいようですが、救急の現場はあまり良くなってないようです。熱心な医師たちに期待したいと思います。

TICOの30年が、ちょうど日本の『失われた30年』と重なります。一人当たりの収入(2位→30位以下)女性の社会進出(世界125位、ザンビア85位)、少子化に有効な手段を打てず、地球温暖化対策も消極的、難民も頑なに受け入れず、軍備は倍増する、間近に迫る食糧危機、地方から崩壊しつつあります。ザンビアから徳島に帰ると「衰退」を痛感します。もしかしたら「援助」なんて言ってもらえないのかもしれませんが。NGOも、今後は経済活動を伴い収入源を確保したやり方(もちろん地球温暖化を食い止める方法で)に変えていくべきだと強く感じます。

👉 ホームページで“30周年記念特集”を掲載中!ぜひご覧ください。

<https://www.tico.or.jp/>

30周年 寄付キャンペーン!

ホームページではクレジットカードでのご寄付が可能です。以下の口座からお振込いただけます。ご寄付は、現在資金不足のザンビア事業に充てさせていただきます。

【ゆうちょ銀行】 当座:一六九店 37649

【郵便振替口座】 番号01640-6-37649 加入者名TICO

お祝いメッセージも大歓迎です。ホームページ等で掲載させていただくかも!



▲団体機関誌「Face to Face」創刊

▶創刊したばかりの頃。一冊が分厚い!



▲2014年2月JICA青年研修受入れ(マレーシア)



▲医学生とのTICO合宿



▲20周年記念の地球人カレッジ



▲フリーマーケット出店

- 1993 ●徳島で国際協力を考える会/TICO設立
- 1994 ●団体機関誌「Face to Face」創刊
●第1回チャリティ・バザー開催
●地域保健プロジェクト(モザンビーク)
- 1995 ●阪神淡路大震災 救援プロジェクト
- 1996 ●マザプカ農村地区診療所(ローカルNGO)支援プロジェクト(ザンビア)
- 1997 ●ザンビア展開催
●第1回地球人カレッジ「ザンビア研究(1)総論」開催
●民生改善プロジェクト(ザンビア)
- 1998 ●第1回ザンビア・スタディーツアー
●救急隊整備計画①(ザンビア)
●第1回 ゆず狩り
- 1999 ●山川げんき市 オープン
●ヒダノ修一スーパー太鼓コンサート(第1回チャリティ・コンサート)
●第1回 徳島国際チャリティ・マラソン
●地球市民教育セミナー中四国ブロック大会(NGO大交流会)開催
●チャイナマ医療技術大学機材供与②(ザンビア)
- 2000 ●国際交流チャリティコンサート
●カニヤマ地区コレラ対策プロジェクト(ザンビア)
- 2001 ●ボランティア相談員派遣(徳島中央郵便局)
●四国大学による栄養調査(ザンビア)
●リサイクルX線装置供与プロジェクト(ザンビア)(JICA事業)
●救急隊整備計画②(ザンビア)
- 2002 ●外務省NGO相談員受託
●青年海外協力隊誌「クロスロード」に「さくらクリニックと仲間たち」連載
●ザンビア南部州飢餓対策緊急医療支援(ザンビア)
- 2003 ●早魃に強い村作り(ザンビア・チペンビ地区)
- 2004 ●NPO法人化
- 2005 ●早魃に強い村作り(ザンビア・カルブエ地区)
- 2007 ●TICOコース(学生団体)発足(～2019年)
●TICO合宿(吉田代表宅で大学生らを受入れ)
●プライマリーヘルスケアプロジェクト(ザンビア)(JICA事業)
●マサカ・コミュニティ・スクール施設改善(ザンビア)
- 2008 ●低所得者の人々の命を守るセーフティネット強化事業(カンボジア)(JICA事業)
●モオンバ・ベシックスクール理科実験室建設(ザンビア)
- 2011 ●東日本大震災被災者支援
●緒方貞子氏(当時JICA理事長)TICO事務所訪問
- 2010～13 ●安全な妊娠/出産の支援事業(ザンビア)(JICA)
- 2014～17 ●チサンバ郡総合的な農村母子保健を支える“地域力”強化事業(ザンビア)(JICA事業)
●救急医療における人材育成を通じた国際協力(カンボジア)プロジェクト(実施団体:セカンドハンド)に専門家派遣(JICA事業)
- 2017～ ●心臓血管外科手術技術移転事業(ザンビア)
- 2018 ●第44回大山健康財団賞
- 2019 ●カンボジア国救急医療に係る研修コース・試験制度の構築と市民への応急処置法の普及事業(JICA)採択
- 2022 ●ウクライナ避難民支援
●第58回徳島新聞大賞受賞



▲菜園プロジェクトで人参収穫(Face to Face No.9 2006年)



▲小規模農村開発ローンでお店を営む女性(Face to Face No.9 2006年)

▶養鶏ローンで事業を始めた人々(Face to Face No.29 2012年)



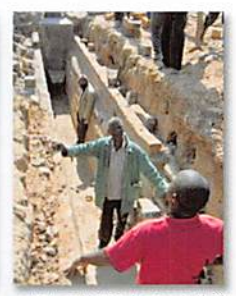
▼救急搬送に関する技術支援(カンボジア)(Face to Face No.14 2008年)



▲救急医療分野の人材育成(カンボジア)



▲ゆず狩り(1998年～2019年)



▲壊れて放置されていた牛消毒用の薬浴槽の復旧作業(Face to Face No.9 2006年)



▲救急医療分野の人材育成(カンボジア)



▲安全な妊娠/出産の支援事業(JICA事業)(Face to Face No.29 2012年)

JICA理事長 緒方貞子氏 来訪

2011年、JICA理事長 緒方貞子氏(当時)がTICO事務所を訪れ、TICOの活動について話し合いを行った。TICOの活動は、国際協力を通じた地域社会の発展に貢献していること、また、TICOの活動が、JICAの活動と連携していること、などが話し合われた。

「TICOとさくら診療所の関係」

TICOは、カンボジアの救急医療分野において、人材育成と技術支援を行っている。さくら診療所は、カンボジアの救急医療分野において、救急医療を提供している。TICOは、さくら診療所と連携し、救急医療分野の人材育成と技術支援を行っている。

Face to Face

58 TIC(ティコ) 季刊ニュースレター

ウクライナ 避難民支援 特集号

第58回徳島新聞大賞受賞

Face to Face No.58 2022年

▲第58回徳島新聞大賞受賞(Face to Face No.59 2022年)



▲豚の心臓を使って手術のトレーニング(ザンビア心臓血管外科手術技術移転事業)

Face to Face

58 TIC(ティコ) 季刊ニュースレター

ウクライナ 避難民支援 特集号

Face to Face No.58 2022年

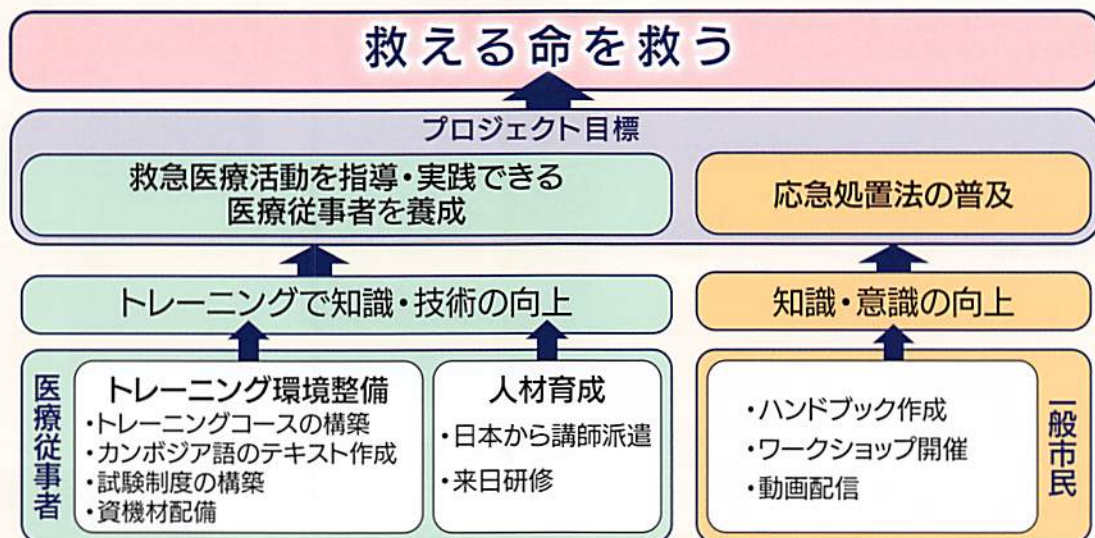
▲2022年3月ウクライナに医師派遣。現在は在日避難民の相談に応じ医療面で支援を続けている(Face to Face No.58 2022年)

特集 カンボジア事業

JICA草の根技術協力事業(地域活性化特別枠)【事業期間:2022年9月~2025年9月】

カンボジア国救急医療に係わる研修コース・試験制度の構築と市民への応急処置法の普及事業

カンボジアの実情に合った救急医療の研修プログラムや教材を整備するとともに指導者となる人材を育成し、カンボジア人自身で技術向上の研修を継続して実施できる仕組みをつくることを目標としています。そのために現地で医療従事者に研修を重ねるとともに、日本に招いての研修を実施します。



医療従事者対象の救急医療の研修

救急医療の技術向上のための研修を実施しながら、カンボジアの事情にあったテキストやトレーニングコースをつくり、カンボジア人自身で継続的に技術向上ができるような仕組みを構築します。またそのインストラクターとなる人材も育成します。

【現地での研修】

- ・日本から派遣した医師、看護師、救急救命士による講義
- ・救急救命士からはデモンストレーションと実技指導もあり



【日本での研修】

- ・講義、実技訓練
- ・医療機関、消防署などの視察
- ・トレーニングコース運営の視察など



住民向けの応急処置法の普及

応急処置についてイラストを多用したわかりやすいハンドブックを作成し、ワークショップで住民に配布。いざという時に自分たちで、できることを正しく対処できるように知識を広げることを目的としています。また日本とは違い救急車は各病院に配備されているので、要請のための電話番号一覧もハンドブックに掲載します。



カンボジアの救急医療

カンボジアの特に地方では救急医療に関する技術研修の機会がほぼなく、適切な処置ができずに救えるはずの命が救えていない現状があります。内戦が終結した1990年代後半から急成長し、今や首都プノンペンは大都会となりました。交通量も増え、経済活動が活発化する中、救急医療のニーズも急増していますが、受け入れる医療機関の発展は遅れをとっています。

カンボジアでは病院に救急車が配備されていますが、日本と同じ119に電話すると全国どこからでもプノンペンの国立病院に電話がかかってしまいます。地方から電話があった場合には近くと思われる病院の電話番号を教えているそうです。近くの病院の電話番号を知らなければ救急車は呼べない状況のため、多くの方はバイクや自宅の農業用の車などで患者を搬送します。病院から救急車を呼んでも、救急車は“運ぶ車”で必要な観察や処置は行われていない現状です。

なぜカンボジアで、なぜ高松市と？

TICOがカンボジアで活動を始めたのは2006年のこと。NGO仲間のセカンドハンド(香川県高松市)に救急医療分野でのニーズがあるので一緒にやりましょうと声をかけられ、ザンビアでの経験者がカンボジアに住んで活動を始めました。その、最初に声をかけたのが現プロジェクトマネージャーです。2012年頃まではTICOが主体となって救急医療に係わる事業を実施しましたが、その後もセカンドハンド—高松市(自治体)のJICA事業の専門家としてTICO理事の渡部医師を派遣し、活動に携っていました。実施団体であるNGO名が変わっただけで、同じ顔ぶれです。

その流れを汲んで、TICO—高松市としてJICAに提案して採択されたのが当事業です。

当事業の資金について

- 日本国の国際協力事業なので、国の予算で実施されている。
- 予算、精算などの監督はJICAが行い、実施団体が管理する。
- 高松市の歳出、歳入はなく、救急救命士の派遣や研修の受入れ調整等を担当。



TICOカンボジアチーム

プロジェクトマネージャー



新田 恭子
TICO理事

国内調整員



太田 詩織



竹内 淳子

技術専門家



渡部 豪
よしのがわ往診診療所(徳島)所長
TICO理事



大久保 洋一
三島中央病院(静岡)救急科・内科



岩井 恵太
自治医科大学附属さいたま医療センター小児科



上谷 遼
埼玉県立小児医療センター小児救命救急センター



高磯 甫隆
チルドレンズナショナル病院(ワシントン)小児科研修プログラム



三橋 乙矢
岡山大学病院 高度救命救急センター所属・クリティカルケア認定看護師、日本DMAT隊員



一二三 淳



松本 哲也

高松市から年間2名の救急救命士を派遣
高松市消防局

チームメンバー募集中!!

カンボジア派遣報告

当事業では年間3回程度、医師や看護師、救急救命士(高松市消防局)などを派遣し、現地での研修を実施しています。毎回バタンバン州の公立病院の医師約30名、看護師約70名が参加しています。以下、TICOのFacebookに寄稿された三橋氏の報告文(抜粋)を掲載します。

三橋 乙矢 プロフィール

岡山大学病院 高度救命救急センター所属、クリティカルケア認定看護師、日本DMAT隊員。中学時代からカンボジア支援のNGO活動にボランティア参加し、現地にも渡航した経験を持つ。

カンボジアにおける高度医療

カンボジアの医療機関は日本の一次～三次救急医療機関と同様に、CPA1～CPA3に分けられ、CPA3の上に国立病院がある。最初は国立病院の1つ、コスマック病院を視察した。多数の診療科があり、検査部や薬剤部、超音波検査室などもある。日本の総合病院に引けを取らない規模の病院である。元々僧侶の病院であったので院内には寺院がある。また低所得者やホームレスを対象とした集中治療室も整備されている。

カンボジアにおけるCPA1, 2, 3の医療

バタンバン州ではCPA1～3の病院を視察。

CPA3は地域医療を担う中核病院である。多くの外来患者が診察待ちの列を作っている。ER(初療室)に車との事故で顔面外傷のバイク運転手が救急車から歩いて降りてきた。日本であれば高エネルギー外傷との判断だが、固定はされていない。救急外来で、まず傷の処置。モニターはあるが、バイタルサインの測定は行わない。高エネルギー外傷だけに、表面からは確認できない潜在的な損傷部位の確認が課題だ。

次に中心地から車で3時間程度のCPA2を視察した。遠いため重症患者をここで安定化させる必要がある。しかし、スタッフの数が少ないほか、資機材の使用方法が分からず活用していない物もあった。

CPA1では、他国の支援でレントゲンが整備されたと聞き、確認したらポータブルX線撮影機があった。使用方法が分からず使ったことはない。

地方の医療従事者は救急医療の知識を習得したくても教育を受ける機会がないと口を揃えて言う。また資機材を支援されても使用方法のレクチャーを受けることが少なく、メンテナンスも行き届いていない。

医師・看護師に対する外傷トレーニングコース 8月23日、24日

カンボジアでは交通事故による負傷者の情報は地域の病院に入り、看護師が病院の救急車に乗って現場に向かう。ただ、病院前救護は搬送するだけであり、その過程で頸椎保護や全身評価は実施されない。

今回JPTEC(外傷病院前救護)の一部をカンボジアの現状に合わせて講義・実習を行った。病院での受け入れ準備や、外傷患者の診療の流れも事例を紹介しながら講義した。

派遣を通して感じたこと

カンボジアの救急医療体制のレベルアップのためには、ソフト面、ハード面ともに支援が必要である。ハード面では諸外国(中国・韓国など)からも支援を受けているが、使用方法が分からない、メンテナンス不足で使用できない物が多くあった。物の支援だけでなく、自ら管理し、長期的に使用していくための支援が必要である。

医療教育体制の整備も必要だ。運よく学ぶ機会に出会っても、それを他者に教える習慣が無かった。今後バタンバン州の医療教育のコアインストラクターになり得る医療従事者を日本に招き、日本の医療について知って頂く。ただ、日本の救急医療教育をそのまま実践しても意味がない。カンボジアの現状にあったシステムを作る必要がある。だからこそ、現地のインストラクターと我々がしっかりコミュニケーションをとりながら進める必要がある。国籍は違えど同じ救急医療に携わる者として、患者の救命に尽力する者として、ともに活動していきたい。



▲国立病院の中にある寺院



▲バタンバン病院(CPA3)の受付



▲ネックカラーによる固定の訓練



▲参加者はメモをとるなど真剣に講義を受講



▲各病院のERと救急車を視察。ストレッチャーと酸素ボンベだけの救急車が多い

来日研修

2023年11月、3年間で3回予定しているうちの1回目の研修を実施しました。
コロナの感染状況は落ち着いてきたものの、救命救急の現場で研修員を受け入れてくれるのか…
不安はありましたが、関係者の皆様や受入機関のご尽力で想定以上の内容となりました。

研修内容

- 1日目** ● 「事業の背景や目的、目指す姿」「日本の医療」の制度などについて講義



- 2日目** ● 高松市消防局の集団救急の訓練と救急司令室視察
● 日本の消防(救急)の仕組みについて講義
● 高松市夜間急病センター視察



高松だから昼はうどん。カンボジアで食べる〇〇製麺のうどんとは違う…と大喜びでした。

高松市長表敬訪問



- 3日目** ● 四国子どもとおとなの医療センター(善通寺市)で視察・研修。ヘリポートを含めて全館を視察。「新生児蘇生法」と小児の「FAST」と呼ばれるエコーでの診察について講義と実技研修

カンボジアに係わったことのある方々がとても協力的で有意義な一日を支えてくれました



- 4日目** ● TICOでの研修&さくら診療所視察 吉田代表とザンビア事業(心臓血管外科手術)担当の松村医師と専門家の渡部医師による講義



看護師さんの食事介助に感動!カンボジアでは病院食はなく、家族が煮炊きするか買ってくるかで看護師が食事介助をすることはありません。高齢の患者さんに優しく接する姿に、「いいね」を3つ(2つの手では足りないほど)あげたい!と大絶賛でした。



- 5日目** ● マリンライナーで瀬戸大橋を渡り岡山へ。岡山大学病院で2日間の視察&研修。心肺蘇生法と成人教育(指導の仕方)の講義と実技



いつも以上に質問が止まらず予定時間をかなり超過。疲れを心配した先生が「研修内容をひとつカットしましょうか」に対し、「続けてほしい、もっと学びたい」…その熱意に先生も驚かされていました。

- 6日目** ● 川崎医科大学付属病院でドクターヘリ、岡山大学病院ドクターカーとERの視察

8月にカンボジア派遣された三橋氏が岡山での研修を調整。高松で夜、茶道体験。貴重な学びと経験ができました。



- 7日目** ● 高松市生涯学習センターで「救急救命士が見たカンボジア&日本で研修中のカンボジアの医師による報告と交流会」を実施

会場とオンラインで約50名の参加となった報告会では、カンボジアの医師から現地の医療事情、救急救命士から8月の派遣報告。交流会ではカンボジアでの医療支援に関心を持つ大学生(香川、徳島、東京)との交流も。



- 8日目** ● 高松南消防局での研修。救急車内の資機材や手技の実習、救急要請があれば、同乗実習で現場へ

訓練用の人形がない現地。気管挿管の実技をもっとやりたい…と本日も時間オーバーでした。これが誰かの命を救うことに繋がると思うと、貴重な時間です。



- 9日目** ● 高松市南消防署での2日目

前日同様、救急出動の要請があれば、急いで防護服とヘルメットを着用し救急車へ。車内は撮影できないためノートにメモをしていました。待機中はバイク事故でのヘルメットの脱がせ方などを他者に指導する想定で訓練しました。

- 10日目** ● よしの川往診診療所(専門家:渡部医師)での研修。設定した症例をもとに対応を考えながら進めていき、そのポイントを説明。

カンボジアでは搬送に時間を要し、心肺停止の患者に搬送中は胸骨圧迫などをしないので、到着した時には手遅れのケースがほとんど。これができるようにになれば救命の確率は高くなります。



- 11日目** ● よしの川往診診療所での2日目 早朝にあった往診依頼の事例と、カンボジアでよくある症例を限られた資機材で対応する例を紹介

来日研修を終えて

帰国後にこの学びをどう活かし、広げていくかが課題です。まずは次回カンボジアでの研修では来日メンバーがサポートしてくれる事でしょう。ようやく実施できた研修でしたが、皆さんが大変協力的であったこと、研修員がハードスケジュールに文句ひとつ言わず、熱心に学んだことで良い研修となりました。次回の来日研修は2024年夏を予定しています。

カンボジア事業技術専門家として

渡部 豪 医師・TICO理事

早いものでTICOのカンボジア事業に関わって15年になりました。この間、一貫して「初期救急対応能力の向上」に焦点を当ててきました。

「初期救急対応」はカンボジアも日本も含めた全世界の課題です。急患に接触して最初の10分に医療者（一般市民の場合もあります）がどう対応するかで、その患者の生命が変わってきます。

ところが、地方だから、夜間休日だから、中小病院だからといった理由で、十分な初期救急対応がなされていないことが全世界で起きています。

資機材が十分でなくても、人数が十分でなくても、急患に対して適切な評価と治療を行う方法は存在しています。適切な対応によって患者の生命を救うことができる例を紹介し、必要な知識と技術をトレーニングすることが使命だと考えています。

例えば、意識障害の患者さんの気道を確保する、ショック状態になりそうな患者さんを早期に発見して安全に搬送する、といったことを教えていきます。

今年11月にはカンボジアから日本に研修生を招へいし、トレーニングを行いました。研修生の熱心な姿に希望を見出しています。

皆様のご協力に感謝します。今後ともご支援よろしくお願いたします。



● TICOの活動を応援してください！ ●

| | | | |
|----------------------|---|-----------------|--|
| TICO 会員募集 | 会員となって資金面からTICOの活動をサポートしてくださる方を募集しています。 | ご寄付 | 皆さまからのご寄付は、支援活動・団体の運営を継続するための大きな支えです。ご支援をよろしくお願申し上げます。 |
| 年会費 | 賛助会員 個人 12,000円 ※通常は賛助会員でのご入会をお願いいたします。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡ください。 学生 6,000円 団体 15,000円 正会員 12,000円 | 銀行振込 | 銀行名 楽天銀行 支店名 第一営業支店(支店番号251) 口座種類 普通 口座番号 7657541 口座名義 特定非営利活動法人TICO ※カナ入力の場合は、(トクヒ)テイク |
| ご入会方法 | ホームページから ①ご入会フォームにお名前等をご入力ください。 ②お支払い方法の選択:クレジットカード継続決済とゆうちょ銀行自動引き落としのいずれかを選択し、手続きに進んでください。 インターネットをご利用でない方 年会費を郵便局備え付けの郵便振替用紙で、次の講座へお支払いください。 ご住所・ご氏名(フリガナ)・お電話番号を通信欄にお書き添えください。 口座番号 01640-6-37649 加入者名 TICO | 郵便振替 | 口座番号 01640-6-37649 加入者名 TICO |
| | | PayPay | 090-8662-9737 |
| | | クレジットカード | ホームページをご覧ください。 |

※会員の方には、TICOのニュースレター「Face to Face」を毎月お送りいたします。

特定非営利活動法人 TICO事務局 〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川 120-4

電話 0883-42-2271(平日 9:00~17:00)

メール info@tico.or.jp

ホームページ www.tico.or.jp

フェイスブック www.facebook.com/ticohq

ブログ blog.goo.ne/tico.blog

Twitter @TICOjapan

Instagram www.instagram.com/ticojapan/



TICOニュースレター Face to Face 第61号

2024年1月発行 発行人:吉田 修